

第 212 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会例会の議事録

村山元理

第 212 回例会 2016 年 10 月 24 日（月）18:00～20:18 学士会館 305 号室（変更）

参加者：古山、山本、宇佐神、佐藤陽、辻井、増澤、尾賀、井上、村山の 9 名

連絡：1 月以降から例会の場所を学士会館から日本経営道協会・企業家ミュージアムに変更。

話題：「黒田総裁夫婦を囲んで」のキャンバンから、供給過剰のなかで利子を減らす金融政策の愚かさについて話題に。

議題

I 『21 世紀の倫理』案

（1）古山英二氏のライフヒストリー（7 月に発表したもの）へのコメント（村山）：客観的史実や倫理理論の解説は省いて、現実のビジネスマンとしての倫理的課題について語ってほしい。

古山→ビジネスマン時代は競争に主眼があり、倫理を考えたことが無かったこと。倫理的問題が生まれた時は上司に相談したこと。法令違反ではないが、やばいことはしてはならないと言われた。サンパウロにての商談で競争相手を出し抜くために他社の顧客を偽装して価格についてスパイすることのモラル上の問題が議論となる。・・・修正へ

（2）「K 銀マン・佐藤陽一さんの人生と哲学」（村山）：6 枚の途中経過を報告。

・戦後の混乱の中でのドングリのあく抜き、秋田連隊から放出のカーキ色の毛布から作ったマント、秋田木材から無料で仕入れたオガクズを利用したストーブのこと。

・失敗続きの人生であること、卒業時の試験忘れ、入社時の電車賃節約に関して支店長に見つかったこと、6000 万円の小切手の紛失事件で、全国の銀行に届け出を出したこと。

テーマ：（1）貧困と倫理。貧しさからくる価値観。がさつな性格から来る失敗談。

（2）融資の論理・倫理観：リターンを求めて貸す功利主義 Vs 温情的につぶさないための義務感的な融資。貸していい相手と駄目な相手。

II. 「懐徳堂」（辻井）概要、体制、著名な学者、現在の運営。—大阪商人の運営で、適塾、心学の塾と並び、大阪の 3 大私塾。大阪大学経済学部の源流。適塾は医学部に。

コメント；古・村：江戸との比較で、大阪商人の社会的位置づけ、背景、思想の独自性、現代の企業倫理への示唆など、次回の石田梅岩の心学と合わせて、途中経過の報告に上記の視点をからませた論点を出すことに期待がかけられた。佐：『日雇い浪人生活録（一）金の価値』（上田秀人著、2016 年）が参考になる。吉宗が佐渡の金をもとに金を中心の経済にしようとしたが、大阪は銀の経済、米中心の先物経済が発達した。緒：歴史学によれば、4 身分というよりも、江戸時代は武士と農工商とエタという三階層と見なすべきである。増：福澤諭吉は心学を否定して、適塾に従った。宇：子安宣邦『方法としての江戸』「第 4 章 懐徳堂知識人の成立」（2000、ペリカン社）も参照してほしい。

今後の予定

11月28日(月) 18:00~20:00 学士会館308号室 連絡担当(村)

「K銀マン・佐藤陽一さんの人生と哲学(後半)」(村山)

仮題「カント哲学は功利主義をいかに克服したか、個人の倫理から他人の倫理へのカントの展開」(古山)

12月19日(月) 18:00~20:00 学士会館308号室 連絡担当(村) (第3週)

1月23日(月) 18:00~20:00 日本経営道協会・企業家ミュージアム

<http://keieido.jp/access/>

JR御茶ノ水駅・聖橋口を出て、橋を渡り、左の階段を下りて、左に折れて、坂を下り、秋葉原方面に徒歩、湯島講堂の前に立つ丸和ビルの2F.

2月27日(月) 18:00~20:00 日本経営道協会・企業家ミュージアム

3月27日(月) 18:00~20:00 日本経営道協会・企業家ミュージアム



<http://keieido.jp/access/>より